

鉄鋼概況

2013年度粗鋼生産 6年ぶり1億1,100万トン超へ

鉄鋼エコノミスト 左近司 忠政

全国粗鋼生産は9月が前年同月比5.5%増となった結果、2013年度上期で前年同期比1.9%増となり、下期も消費税増税前の駆け込み需要の見込みなどから上期を上回って2013年度通年で6年ぶりに1億1,100万トン超となる可能性が大きい。鉄鋼業界は省エネ設備の導入・操業効率の徹底が二酸化炭素(CO₂)削減に大きく寄与し、排出原単位が大幅に改善した結果、地球温暖化防止自主行動計画の中で掲げたCO₂排出目標達成がほぼ確実となった。世界鉄鋼協会(WSA)が10月7日に発表した世界鋼材需要の短期見通しによると、2013年の見掛消費量は前年比3.1%増、2014年は同3.3%増と予測している。WSAまとめの9月世界(65カ国)の粗鋼生産量は、前年同月比6.1%増で12カ月連続して前年同月実績を上回り、65カ国の1日当たりの日産量は前月比4.6パーセント増と5カ月ぶりに増加した。

@@

◆2013年度粗鋼生産、6年ぶりに1億1,100万トン超か

鉄鋼連盟が発表した8月末の普通鋼鋼材国内在庫(メーカー・問屋段階)は、前月末比18万6,000トン、3.5%増の554万6,000トンと2カ月ぶりに増加した。在庫率は前月末比20.3ポイント上昇して147.5%となった。一方、8月末の普通鋼鋼材流通在庫は鉄連が行なった全国市中鋼材数量調査によると、前月末比9,000トン、0.3%増の266万4,000トンと3カ月ぶりに増加した。8月の販売量は前月比6.6%、17万9,000トン減の254万6,000トン(前年同月比1.7%増)となり、その結果在庫率は前月末32カ月ぶりに100%を割ったものの、7.2ポイント上昇の104.6%と再び100%超となった。

主要製品の在庫状況は、8月末の薄板3品(熱延・冷延・表面処理鋼板)の国内在庫(メーカー・問屋・コイルセンターの合計)は、前月末比16万1,000トン、4.3%増の391万6,000トンと、季節要因もあり2カ月ぶりにしかも大幅に増加した。8月末の在庫率は前月末比0.08ポイント上昇の2.21カ月となった。建材製品であるH形鋼の9月末在庫は新日鉄住金の建材特約店組織である「ときわ会」の調査によると、前月末比4,000トン、0.2%増の18万6,500トンと微増ながらも4カ月ぶりに増加した。9月の出庫量は1日当たり5,100トンと2011年12月以来の高水準で、その結果9月末の在庫率は1.92カ月と前月末比0.10ポイント低下し、2カ月を割り込み需給は引き締まってきている。

鉄鋼連盟が発表した9月の全国粗鋼生産は、前年同月比5.5%増の928万5,000トンで、1日当たりの粗鋼生産量は前月比4.9%増の30万9,500トン(年率換算1億1,300万トン)となった。炉別生産では転炉鋼が前年同月比5.3%増の714万トン、電炉鋼が同6.1%増の215万トンとなり、前月に13カ月ぶりに前年同月比増となった電炉鋼の回復が続いている。この結果、上期(4~9月)の全国粗鋼生産は前年同期比1.9%増の5,579万トンとなった。上期は建築・土木や自動車向けの内需が好調に推移し、円高是正による鋼材の輸入減と輸出増もあって粗鋼生産が回復した。加えて下期も国内の住宅・自動車分野などで消費税増

税前の駆け込み需要が見込まれることから、粗鋼生産は上期を上回る公算が大きい。2013年度は3年ぶりに1億1,000万トン台に乗せ、6年ぶりに1億1,100万トン超となる可能性が大きい。

財務省が発表した9月の鉄鋼貿易統計によると、輸出(全鉄鋼ベース)は前年同月比2.2%減、前月比6.6%減の345万2,000トンとなった。数量減は国内需要の回復で高炉大手が輸出向けの供給を絞ったことの影響とされる。全鉄鋼輸入は前年同月比5.9%減の57万1,000トンとなり、2カ月ぶりに減少に転じた。主要国・地域別輸出では、アジアが0.4%増の278万トンで、うち中国向けが3.8%増の51万1,000トンと5カ月ぶりの増、ASEAN向けが5.7%増の114万2,000トンと4カ月ぶりの増、NIE's向けが7.5%減の101万2,000トンと5カ月連続の減少となった。このほか中東向けは17.6%減の10万6,000トンと2カ月連続の減、米国向けは28.0%減の18万1,000トンと3カ月ぶりの前年割れとなった。主要国・地域別輸入ではアジアからが46万9,900トン(11.1%減)で、うち中国は9万7,000トン(5.2%増)、NIE'sが33万4,000トン(18.2%減)、ASEANが7,700トン(21.2%増)であった。

◆10～12月期粗鋼需要、2期ぶり増——経産省見通し

経済産業省が発表した2013年度第3四半期(10～12月期)の需要量相当の粗鋼生産量は、前期比0.4%増の2,797万トンとなる。2,600万トンを割り込んだ前年同期に比べ8%増加する見通しとなっている。見通しによると、当期の国内・輸出を合わせた鋼材輸出量は、前期比1.3%減の2,460万トンの見込みで、期ずれの影響で輸出を中心に2期ぶりに減少する。前年同期では5.0%と4期連続の増加となる。普通鋼鋼材の国内需要は、前期比1.0%増、前年同期比4.1%増の1,283万トンとなる。牽引するのは前期に引き続き建設で前期比1.4%増、前年同期比4.8%増の565万トンと見込んでいる。製造業は前期比0.7%増、前年同期比では3.7%増の718万トンと見込んでいる。前年同期でみると造船が11.2%減と大幅に低下するものの、自動車(8.8%増)、産業機械(6.7%増)は堅調に推移している。普通鋼鋼材の輸出は前期比4.4%減、前年同期比1.4%増の680万トンと見通しており、期ずれ出荷が多かった前期と比較すると減少するが、引き続き高水準を維持する。

当見通しを織り込んだ2013暦年の粗鋼生産量は1億1,056万トンとなり、暦年ベースでは2007年以降5年ぶりに1億1千万トンを上回る。

◆鉄鋼業界、CO₂排出目標達成へ

鉄鋼業界は、地球温暖化防止自主行動計画の中で掲げた二酸化炭素(CO₂)の排出目標の達成がほぼ確実となった。自主行動計画では、京都議定書に基づき2008～12年度の5年間平均でエネルギー消費量を1990年比10%、CO₂を9%削減することを目標として掲げている。鉄鋼業界全体のCO₂排出量の9割以上を占める高炉メーカーの5年間の年平均排出量は1億6,890万トンで、1990年比9.7%削減(新日鉄住金:11.2%減、JFEスチール:8.4%減、神鋼:7.7%減、日新:3.9%減)を達成した。高炉4社の5年間の年間平均粗鋼量は8,436万トンで1990年度の8,057万トンに比べ4.7%増となったが、生産量の増加にも係わらずCO₂排出量が減少したことは、排出原単位が大幅に改善したことを示す。省エネ設備の導入・操業効率の徹底が排出量の削減に大きく寄与したとされる。鉄鋼業としては、2013年以降も経団連の低炭素社会実行計画に参画し、3つのエコ(エコプロセス・エコプロダクト・エコソリューション)、革新的製鉄プロセスを四本柱にした地球温暖化対策を推進するとしている。

◆2013年の世界鋼材需要見通し、前年比3%増——WSA 予測

世界鉄鋼協会（WSA）は10月7日、伯サンパウロで開催中の年次総会の席上で、2013年・14年の世界の鋼材需要の短期見通しを発表した。それによると、2013年の見掛消費量は前年比3.1%増の14億7,500万トン、2014年は同3.3%増の15億2,300万トンと予測している。

主要国・地域でみると、中国は2013年はインフラに対する政府の景気刺激策が寄与し前年比6.0%増の7億トン、2014年は政府の投資抑制策の影響で同3.0%増の7億2,100万トンと伸びは減速する。中国を除く世界の鋼材需要は、2013年は0.7%と微増の7億7,500万トン、2014年は3.5%増の8億300万トンと伸びが回復する。新興国（中国を含む）は2013年には4.9%増の10億9,100万トン、2014年は3.8%増の11億3,800万トン、先進国は2013年には1.6%減の3,840万トン、2014年が1.7%増の3,900万トンと予測している。中でもEU27は2014年には前年比2.1%増の1億3,800万トンと3年ぶりに増加に転じるとみている。日本は2013年は政府の経済対策や円安効果により前年比0.1%増の6,400万トンとみているが、2014年には消費税の引き上げやエネルギー価格の高止まりなどで1.6%の減にとどまるとしている。

表-1 世界の鋼材見掛け消費量見通し

(単位:100万トン, カッコ内は前年比増減率%)

	2012年	2013年	2014年
EU27カ国	140 (△9.5)	135 (△3.8)	138 (2.1)
その他欧州	35 (4.3)	37 (5.5)	38 (4.6)
CIS	57 (4.5)	59 (3.0)	61 (3.5)
NAFTA	132 (8.4)	132 (0.2)	136 (3.2)
中南米	47 (3.1)	49 (4.3)	51 (5.0)
アフリカ	27 (7.9)	28 (7.9)	30 (8.2)
中東	49 (△1.3)	49 (1.3)	53 (6.3)
アジア・オセアニア	943 (2.8)	986 (4.6)	1,016 (3.0)
世界計	1,430 (2.0)	1,475 (3.1)	1,523 (3.3)
先進国	390 (△1.7)	384 (△1.6)	390 (1.7)
新興国	1,040 (3.4)	1,091 (4.9)	1,133 (3.8)
中国	660 (2.9)	700 (6.0)	721 (2.0)
BRIC	799 (2.8)	843 (5.6)	871 (3.3)
中東・北アフリカ	63 (2.2)	64 (1.7)	69 (7.3)
中国除く世界計	770 (1.1)	775 (0.7)	803 (3.5)

(資料) 世界鉄鋼協会 作成

◆9月の世界粗鋼生産、12カ月連続で前年比増

世界鉄鋼協会のまとめによると、9月の世界(65カ国)の粗鋼生産量は、前年同月比6.1%増の1億3,255万トンとなり、12カ月連続で前年同月実績を上回った。65カ国の1日当たりの日産量は前月比4.6%増と5カ月ぶりに増加した。操業率は79.3%と前月比3.4ポイント、前年同月比2.1ポイント上昇した。中国の日産量は前月比2.0%増と2カ月連続で伸び、中国以外は7.3%と4カ月ぶりに増加した。新興国の9月の日産量は、現代製鉄が3基目の高炉を稼働した韓国は前月比9.1%増と3カ月ぶりに増え、インドは2.7%増と4カ月ぶり、ブラジルは4.2%と3カ月連続で増加した。先進国では、EUが22.3%増と4カ月ぶり、日本も4.9%増と4カ月ぶりに増加し、米国は0.3%増と3カ月連続で増加した。1~9月の65カ国の累計生産量は前年同期比2.7%増の11億8,620万トンで、年率換算すると15億8,600万トンと前年比約6,500万の増加に当たる。また、中国は年率では7億8,500万トンと前年比約6,900万トン増となる。 □